

南伊豆歩道(2)

(入間—吉田)

(一般向)

灰などからなる美しい地層を見ることが出来る。平坦な磯となつていて、磯釣りの名所としても知られている。千畳敷は伊豆半島ジオパークの中でも特徴的なジオサイトで、南伊豆町の小学生も授業で訪れている。

南伊豆歩道・入間—吉田コース(全長約4km)は、南伊豆歩道の中でも最も高低差があり、歩く難易度が高い。きつい分、海底火山が作つたダイナミックな景観を楽しめるコースだ。かなりハードなコースなので登山靴を履き、ストックを持つていくのが望ましい。また、体力をかなり使うので季節を問わず飲料水や軽食は十分に準備する必要がある。

交通は不便なので、宿泊を伴う等のゆとりを持った計画を立てる必要がある。

入間のバス停から、そのまま広い道を海岸へと下っていく。入間の冬は風が強いので、海側は石垣で囲まれている。浜は深い入り江になつていて、夏には海水浴や磯遊びの家族連れでにぎわう。入り江の右手に見える船揚場がこのコースの入口。大きな案内看板がある。急な石段を上る。足元に生えている、冬でも青々としているハート形の葉は、フットウカズラである。

上り切ると左に南伊豆町の小さな石柱。ここからいつたん下つてまた上り。この先は滑りやすい箇所があ

歩程 約3時間30分

るので注意しながら上る。途中、大日如来の碑がある。

上り切り、舗装された林道を左へ。

林道の終点に大きな案内看板がある。ここが千畳敷の入口である。急な階段なので足元に注意しながら下りよう。往復35分くらいみておけば行つてこられる。

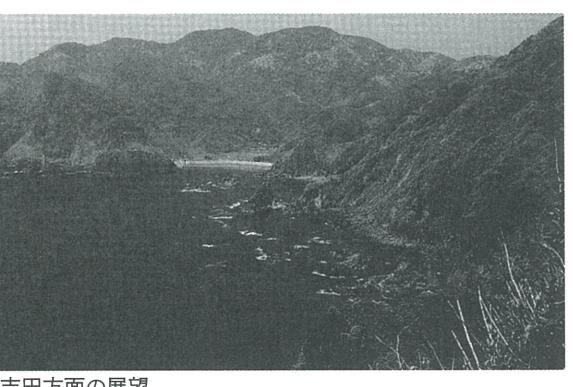
千畳敷は、入間地区の小学校の通学路を作るために石を切り取つた所だ。また、海底に降り積もつた火山

案内標識からスズ竹の多い山道に入り。スズ竹がカヤの原に変わつて上り切ると、高さ160mの絶壁の上に出る。ここからはどんどんと下つていく。

右側は深い谷になつていて、ちょうど尾根を歩くようなかつこうだ。カヤの斜面からジグザクに下る。季節風の時期にはまともに歩けないほどの強風が吹きつけるので注意が必要だ。

ゴロタ石の富戸の浜を突つ切つて正面の沢に向かう。沢の右手から岩場を上り、沢沿いに上つて行く。途中で、この沢を左へ渡り、急な斜面をジグザグと上つて行く。断崖沿いに上つて行くと左側が開けて、今歩いてきた三ツ石方面がよく見える。ここからは海に急に落ち込んだ斜面につけられた道で、アップダウンの一本道が続く。展望は良いが足を踏み外すと大変危険な道なので特に風の強いときは注意して歩こう。

下りがきつくなつてツバキの林を抜けると吉田の浜に出る。防波堤を歩き、中央付近から右に下り、沢を



▲吉田方面の展望

渡ると正面に、樹齢約800年・県の天然記念物であるビャクシンの茂る白鳥神社がある。

白鳥神社には日本武尊と弟橘姫命が祀られ航海安全と安産のお宮として知られている。安産祈願をし、無事安産を終えたたら小穴の開いた「ひしゃく」と「麻ひも」を持ってお参りをする習わしがある。

神社前から舗装された細い道をたどると吉田の集落へと入る。アロエ畠が特徴的な小さな集落だ。広い道に出て、そのまま進むと南伊豆歩道吉田—妻良コースの案内看板がある。ここで打ち切る場合は、このまま車道を約2km歩くとバス停吉田口に到着する。

